

東工大社会人教育院主催／蔵前工業会共催講演会

“ひと、テクノロジー、社会”の今



2013年

1	1/23(水)	サービスシステム科学の展開	木嶋恭一	東工大大学院社会理工学研究科 教授
2	1/25(金)	フクシマから何を学ぶか?～日本を再構築するために	上田紀行	東工大 リベラルアーツセンター 教授
3	1/30(水)	行き場がない原発からの核のゴミ	今田高俊	東工大大学院社会理工学研究科 教授 日本学会会議員
4	2/1(金)	宗教と科学技術 なぜキリスト教は科学と哲学をうんだのか	橋爪大三郎	東工大大学院社会理工学研究科 教授
5	2/6(水)	地球環境を悪化させる社会の仕組み:その処方箋をお話します	蟹江憲史	東工大大学院社会理工学研究科 准教授
6	2/8(金)	現代日本の民主政とIT	谷口尚子	東工大大学院社会理工学研究科 准教授

■時間:18:30～20:30 ■会場:東工大 田町キャンパス・イノベーションセンター 1階 国際会議室 (JR田町駅芝浦口徒歩1分)
 ■対象:一般社会人、蔵前工業会会員、東工大学部学生・大学院生、東工大教職員、社会人教育院講座受講生 ■定員:100名 ■受講料:別記の通り
 ■参加申込み:2012年12月3日(月)午後2時から ■Eメール:info@kyoiku-in.titech.ac.jp ■電話:03-3454-8867
 ■お問い合わせ:〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター 809号室 東京工業大学 社会人教育院
 ■WEBサイト:<http://www.kyoiku-in.titech.ac.jp/> (東京工業大学WEBサイト→「一般・社会人の方へ」→「社会人教育院バナー」→社会人教育院WEBサイト)
 *やむを得ない事情によりプログラムを変更することがございます。ご了承ください。

【受講料】1.一般社会人:講演会1回あたり2,500円／6回一括申込12,000円
 2.社会人教育院講座受講生、東工大教職員:講演会1回あたり2,000円／6回一括申込9,600円
 3.蔵前工業会会員(会費納入者):無料 4.東工大学部学生・大学院生:無料

130年の長きにわたり、工業立国日本を支えてきた本学は、1000名以上の教職員(教授・准教授・助教)が、様々な先端研究を行っています。これらには、理学、工学のすべての分野をカバーする先端研究はもとより、数多くの人文社会学系教職員によるユニークな先端研究もあります。

本学は戦後一貫して、芸術、人文社会科学の教育に力を入れてきました。この精神は、現在においても学内の様々な部署にしっかりと根付き、大きな成果を生みだしました。例えば、社会理工学という新しい学問領域を創出し、斬新な教育・研究体制を実現して、科学技術と社会のインターフェイスの重要な役割を担う学問として発展させるなど、本学が目指す理工系総合大学への道に大きく貢献しています。

東京工業大学社会人教育院は、科学技術が抱える様々な問題に着目し、人文社会学の目で掘り下げ、人と技術のかかわりについて考



えることを目的としたシリーズ講演会「ひと、テクノロジー、社会」の今」を開催する運びとなりました。6回の講演では、東工大が誇る人文社会学分野の6名の講師を招きました。人文社会学的な目で「科学技術」をとらえ、社会とのインターフェイスに目を向けることは、今後の「科学技術」の発展を考える上で、重要な示唆を与えてくれるものと期待しています。皆様の聴講を心から歓迎する次第です。

本講演会は、本学同窓会組織「蔵前工業会」の支援を受けて開催いたします。紙面を借りて感謝の意を表します。

社会人教育院院長 **鈴木正昭**

Lecture Summary

講師紹介と講演要旨

1

1/23(水) 18:30~20:30(質疑応答含む)

サービスシステム科学の展開

東工大大学院社会理工学研究科 教授 **木嶋 恭一**



講演要旨

我が国の今後のビジネスの方向性が、新たな価値創造とグローバル展開にあるのは論を待たない。しかしながら、これまでのモノ作りの強みがそのまま、目に見えない価値創造に直結しないことも確かである。本講演では、デザインや質感など新たな価値を顧客と提供者が共創する過程をサービスとして定義して、それをシステム科学の視点から議論する新たな学問であるサービスシステム科学について、そのねらい、研究と教育、海外の状況など、具体的な例を交えながら紹介する。

講師略歴: 1980年東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了、工学博士。英国Hull Business School客員教授。現在の専門は、システム科学(特にサービスシステム科学、意思決定システム科学)。文科省委託事業サービス・イノベーション人材育成推進プログラム取組責任者、科学技術振興機構社会技術研究開発事業「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」研究代表者。The International Society for the Systems Sciences(ISSS)元会長。International Federation of Systems Research (IFSR)副会長。近著に「Value Co-Creation Process and Value Orchestration Platform」(in J. Spohrer et al. (ed.), Global Perspectives on Service Science, Springer, 2013)。

2

1/25(金) 18:30~20:30(質疑応答含む)

フクシマから何を学ぶか?~日本を再構築するために

東工大リベラルアーツセンター 教授 **上田 紀行**



講演要旨

世界最高水準の科学技術力を持つ日本で、なぜ「フクシマ」が生まれてしまったのか。物質的に豊かであっても「生きる意味」が空洞化した日本社会、言論の自由はあっても「空気」を読んで発言しない日本人と日本文化の流れをときほぐし、そこから真に幸せな国への再構築の道を探りたい。

講師略歴: 1958年東京生まれ。東京大学大学院文化人類学専攻博士課程修了。博士(医学)。日本社会の閉塞性の根源を明らかにし、その復活の可能性を描いた『生きる意味』(岩波新書)は2006年度全国大学入試出題率第一位の著作となる。東工大では学生の授業評価がトップになり、東工大教育賞最優秀賞を受賞。『ライ・ラマとの二日間』(講談社文庫)や、『慈悲の怒り―震災後を生きる心のマネジメント』(朝日新聞出版)等、著書多数。

3

1/30(水) 18:30~20:30(質疑応答含む)

行き場がない原発からの核のゴミ

東工大大学院社会理工学研究科 教授 日本学術会議会員 **今田 高俊**



講演要旨

昨年の9月11日に、日本学術会議は原発からの高レベル放射性廃棄物問題、いわゆる核のゴミの処分についての報告書を原子力委員会に提出しました。その中で、原発から出る核のゴミを地下深くに廃棄する「地層処分」は難しいとし、抜本的に見直すように提言しました。日本学術会議が「高レベル放射性廃棄物の地層処分は難しい」と判断した理由は何だったのか? また、今後どのような対応をすべきだと提言しているのか。検討委員会の委員長を務めた立場から、報告書作成の経緯とその内容について話します。

講師略歴: 神戸市生まれ、甲陽学院高校卒。1972年東京大学文学部社会学科卒、75年東京大学大学院社会学研究科博士課程中退、東京大学文学部社会学科助手、79年東京工業大学工学部助教授。88年東京工業大学工学部教授を経て96年から現職。日本学術会議会員。研究分野は社会システム論、社会階層研究、社会理論。著書に「自己組織性—社会理論の復活」(創文社)、「意味の文明学序説—その先の近代」(東京大学出版会)など。

4

2/1(金) 18:30~20:30(質疑応答含む) 宗教と科学技術 なぜキリスト教は科学と哲学をうんだのか

東工大大学院社会理工学研究科 教授 橋爪 大三郎



講演要旨

自然科学はなぜ、西欧キリスト教文明圏で生まれたのか。天地創造やノアの洪水、モーセの十戒を信じる人びとがなぜ、合理的な自然科学を生み出したのか。一見逆説ともみえる不思議を、宗教、神学、哲学のロジックをたどることで、解き明かします。そして、科学技術が社会に与えたインパクトと、資本主義や現代哲学を生み出した秘密を、追いかけてみます。

講師略歴：1972 東京大学文学部社会学科卒業 / 1974 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了 / 1977 東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学
1989 東京工業大学工学部助教授 / 1995 東京工業大学工学部教授 / 1996 東京工業大学大学院社会理工学研究科教授

主な著書に、「世界がわかる宗教社会学入門」(筑摩書房, 2001), 「ふしぎなキリスト教」(講談社, 2011), 「史上最強図解 橋爪大三郎といっしょに考える宗教の本」(ナツメ社, 2011)などがある。

5

2/6(水) 18:30~20:30(質疑応答含む) 地球環境を悪化させる社会の仕組み:その処方箋をお話します

東工大大学院社会理工学研究科 准教授 蟹江 憲史



講演要旨

戦後社会の仕組みが出来てから60年以上が経ち、世界をめぐる課題は本質的に変化しました。地球環境問題も、かつて考えられていた環境問題は質的に変化し、新たな対応が迫られています。他方、社会の中で力を持つ主体も変化しています。ところが課題解決のための制度や思考回路は旧態依然のまま。これでは地球環境が悪化するのも当然です。本講座では、最先端の社会科学的研究の中から、こうした変化に対応し、社会や科学技術の新たな変化を取り入れた新たな仕組み作りのあり方と、そこに至るために今後取るべきアクションをお示しします。

講師略歴：東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授、国連大学高等研究シニアリサーチフェロー。北九州市立大学助教授を経て現職。OECD気候変動・投資・開発作業部会議長、World Economic Forum World Economic Forum Global Agenda Council委員、Earth System Governance プロジェクト科学諮問委員などを兼任、欧州委員会Marie Curie Incoming International Fellow及びパリ政治学院客員教授(2009-2010)などを歴任。専門は国際関係論、地球環境政治。特に、気候変動やアジアにおける越境大気汚染に関する国際制度研究に重点を置き、来年度からは持続可能な開発目標とガバナンスに関する研究プロジェクトを開始予定。近著に「Norichika Kanie, Michele M. Betsill, Ruben Zondervan, Frank Biermann and Oran R. Young, 2012, "A Charter Moment: Restructuring Governance for Sustainability", Public and Administration and Development, 32, PP. 292-304など多数。

6

2/8(金) 18:30~20:30(質疑応答含む) 現代日本の民主政とIT

東工大大学院社会理工学研究科 准教授 谷口 尚子



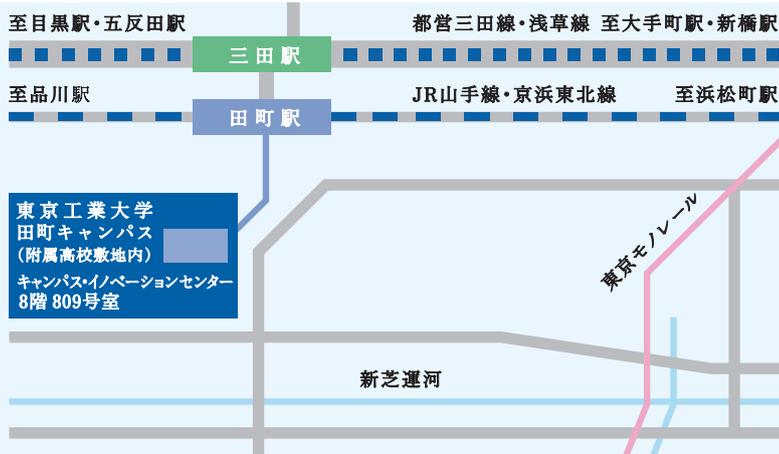
講演要旨

社会・経済に遅れて、政治でもようやくITの影響が本格化しつつある。従来の政治的コミュニケーションは様々な社会集団を通じて、またマス・メディアに先導されて行われてきた感があるが、近年ではインターネットも有力な「場」となっている。ネットの影響力を無視できなくなった政治家・政党・行政の積極化も垣間見られ、選挙についても「電子投票」等が検討されている。しかし言うまでもなく、民主政に対するITの影響力増大には功罪両面がある。本講演では、現代日本の民主政とITの関係を考察したい。

講師略歴：慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了、博士(法学)。帝京大学専任講師、ミシガン大学客員研究員、カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員、東洋大学准教授を経て現職。専門は政治学(政治行動論・政治学方法論)。著書に「現代日本の投票行動」(慶應義塾大学出版会)等。日本政治学会・日本選挙学会・公共選択学会会員。日本学術会議連携会員、総務省「21世紀地方自治制度研究会」「住民訴訟に関する検討会」委員。

Information

会場およびお問い合わせ先



会場までの経路

- JR山手線・京浜東北線 田町駅下車・・・徒歩1分
- 都営三田線・浅草線 三田駅下車・・・徒歩5分

JR田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ
東京工業大学附属科学技術高等学校正門の隣り

お問い合わせ先

〒108-0023

東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター809号室

東京工業大学 社会人教育院

[電話] 03-3454-8867 [FAX] 03-3454-8762

お問い合わせ時間/月曜～金曜 10:30～17:15 ※昼休み12:15～13:15を除く

[メール] info@kyoiku-in.titech.ac.jp

[ウェブサイト] www.kyoiku-in.titech.ac.jp

講演会当日

- 開場は18時00分(講演会開始30分前)を予定しております。講演が始まる時刻の直前は受付が大変混みますので、お早めにお越しください。
- 講演会の時間は予定時間より多少延長・短縮されることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 東工大学部学生・大学院生の方は、受付にて学生証をご提示ください。また、東工大教職員の方は、職員証の提示をお願いいたします。

注意事項

- 有料受講者の方は、申し込み後(WEB等)こちらから連絡いたします。所定の口座への受講料の振り込み確認をもって、正式の申し込みとします。なお、振込手数料を各自でご負担ください。
- また、受講料は所定の口座への振り込み以外は一切認めません。現金をご持参されても受領いたしませんので、ご注意ください。
- 指定された期間内に受講料が納入されない場合には、申し込みはキャンセルされたものと見なします。
- 各講演会毎に設定された定員に達し次第、受付を締め切ります。
- 申し込みされた講座の変更はできません。
- ご入金された受講料は、受講者の方の都合により講演会へ参加されない場合、受講料の返金はいたしません。また地震、台風、その他やむを得ない事情により中止する場合がありますが、その場合には別の日に講演を延期いたしますので、こちらにご参加ください。この場合、受講料の返金はいたしません。
- 講演会の中止、延期がある場合は、申し込みの際に登録された連絡先へお知らせいたします。
- 受講申し込み後、キャンセルされる場合には、早急に問い合わせ先へご連絡ください。
- 当日講演会場へ車での来場はご遠慮願います。
- 申込締切日:1月23日(水)・1月25日(金)講演の締切日は1月11日(金) 1月30日(水)・2月1日(金)講演の締切日は1月21日(月) 2月6日(水)・2月8日(金)講演の締切日は1月28日(月)

Application Method

講演会のお申込について

●平成24年12月3日(月)より受付開始

※満席時に空席を待つ方がいらっしゃいます。参加申込後やむを得ずキャンセルされる場合は、事前にインターネットからのキャンセル処理、または社会人教育院 事務室までメール等にてご連絡くださいますようお願いいたします。

1. WEBサイトからのお申込み

※WEBサイトの手順に従ってお申込みください。

<http://www.kyoiku-in.titech.ac.jp/>

東京工業大学WEBサイト→「一般・社会人の方へ」→「社会人教育院バナー」→社会人教育院WEBサイト→「講演会」



2. メールによるお申込み

参加申込書にある項目をお知らせください。

【メール宛先】info@kyoiku-in.titech.ac.jp※お申込受付完了後、[info@kyoiku-in.titech.ac.jp]から自動返信メールをお送りします。

- ・携帯電話のメールアドレスから申し込まれる場合、自動返信メールが受信できるようメール着信設定を行ってください。
- ・パソコンのメールアドレスから申し込まれる場合、一部のフリーメールには自動返信メールが届かない場合がありますので、ご注意ください。
- ・自動返信メールは、ネットワークの混雑具合により到着が遅れる場合があります。



3. FAXによるお申込み

下記の参加申込書をお使いください。

【FAX宛先】03-3454-8762



参加申込書

フリガナ 氏名	年齢 性別	歳 男 女
メールアドレス	@	
現住所・電話番号	〒 - 電話 - -	
職業	〈該当するものに○をつけてください〉 1.会社員 2.公務員 3.教員 4.自営業・自由業 5.学生(高校・大学・大学院・その他) 6.主婦 7.無職 8.その他	
参加希望日に○を記入してください		
〈1〉1月23日(水)	〈3〉1月30日(水)	〈5〉2月6日(水)
〈2〉1月25日(金)	〈4〉2月1日(金)	〈6〉2月8日(金)
申込区分	〈該当するものに○をつけてください〉 一般社会人 蔵前工業会会員 東工大学部学生・大学院生 東工大教職員 社会人教育院講座受講生	
蔵前工業会会員、東工大学部学生・大学院生、東工大教職員、社会人教育院講座受講生の方は以下も記入してください		
蔵前工業会会員	卒業・修了年度	
	在籍していた学部・学科等	
東工大学部学生・大学院生	学籍番号	
	所属(学部/専攻/研究室名)	
東工大教職員	職員番号	
	所属	
社会人教育院講座受講生	受講番号	
	受講科目/受講年度	

※お申込みいただいた情報は、個人情報に関する法律に基づき管理し、外部に流出しないよう厳重に管理いたします。